

アジア・アフリカ図書館だより

第10号

令和7年10月

8月11日付『中日新聞』で紹介されました

戦後の足跡を伝える「中文研資料」——保存と活用のいま

中日文化研究所（以下「中文研」）は、戦後直後に設立された文化機関であり、アジア・アフリカ図書館の前身ともいえます。創立者・菊地三郎先生が遺した草創期（1946～1957年）の活動記録や関連資料（以下「中文研資料」）は、日中文化交流の歩みを記録した貴重な史料です。本誌第9号でもご報告したとおり、現在は「中日文化研究会」（代表：高綱博文・日本大学名誉教授）により、調査と研究が進められています。

この動きに合わせ、当図書館では研究者の便宜を図るため、中文研資料のデジタル化を進めてきました。すでに約6,000コマの画像データを作成し、研究会による詳細な資料目録の作成も並行して行われています。また、これらを活用した論文や報告も公表され始めています。

今年8月11日付の『中日新聞』では、中文研資料に基づく記事が第1面トップに掲載されました。記事には「上海居留邦人 終戦直後の世論」とのリードが添えられ、1946年3月に上海の邦字紙『改造日報』が現地日本人を対象に行った世論調査を取り上げています。戦後80年を経た今、この調査結果をもとに、敗戦後

にも色濃く残った日本人の“帝国意識”が分析されており、「草の根のファシズム（全体主義）の担い手として戦争を支えた民衆、特に大陸部にいた日本人の意識は、戦後もただちには変わらなかったことを示している。戦後直後の意識が生々しく浮かび上がる一級資料だ」との高綱教授のコメントが紹介されています。

こうした新聞報道や研究成果を通して中文研資料が社会的に活用されることは、戦後史研究にとっても大きな意義があります。当図書館では、これからも資料の保存と活用の両面に力を注ぎ、この貴重な歴史を未来へと受け継いでまいります。



『所報』（「中文研資料」より）

図書館長あいさつ



本年6月に前任者である篠原昭雄館長より引継ぎ第7代目館長として就任しました。大きな施設ではありませんが、特徴ある専門図書館として従前通り、しっかり幅広く運営を行ってまいりますので、ご支援よろしくお願いいたします。

現在アジア・アフリカ図書館は、「郭沫若文庫」の設置（1957年）から68年を迎えています。今では三鷹市とのパートナーシップ協定締結のもとに、三鷹市立南部

アジア・アフリカ図書館長 加藤 隆弘

図書館みんなみとの交流を中心として数々のイベントを三鷹市と共同で行い、多くの市民や支援者に参加いただき、好評を得ています。

今年度アジア・アフリカ図書館は昨年に引き続き「インドネシア」をテーマに活動してまいります。インドネシアの特質をより理解し、身近に思える関係を築き、さらに盛り上げたいと願っています。今後開催される諸行事もこのテーマに沿い関連付けて行ってまいりますので、ご参加、ご支援よろしくお願い致します。

インドネシア・バティック（蠟けつ染め）ワークショップ

アジア・アフリカ図書館では、三鷹市立南部図書館みんなみの創設記念日を祝う「みんなみフェスタ」に毎年、参加協力を行っています。令和6年度は、楽しみながら異文化を体験し、関心を高めてもらうことを狙い、インドネシア伝統の蠟けつ染めであるバティックを取り上げ、親子で参加できるイベントとしました。

バティック（蠟けつ染め）は、本格的にはハンドライティングで模様を描きますが、今回は、初めてでも楽しく作品を仕上げるができるよう、チャップという金型を使いました。

講師が約50種類にも及ぶチャップ（金型）をご用意くださったのですが、その作りの繊細さに驚かされました。インドネシアの職人が一つひとつ手作りしているとの説明がありました。



ホットプレートで温めた蠟をチャップにつける



チャップ（金型）

各自、思い思いのチャップを選び、ホットプレートで温められた蠟をチャップにつけて、デザインを考えながら布に押します。その布を藍染液に何回か浸して染め上げます。すると、蠟が付いた部分が白く模様として浮かび上がるのです。最後に、熱いお湯で布の蠟を落とし、乾かせばオンリーワンの作品の完成！

参加者は和やかな雰囲気の中でバティックの体験を楽しむとともに、講師からバティックを巡る歴史、文化的な位置づけ等の解説を聞きました。しばしの間、インドネシアの文化や人々の生活に思いを馳せるひと時となりました。



チャップを布に押す



染めた布を干す



染め上がった作品

実施日時：令和6年11月23日（土・祝） 午前10時～12時、午後1時～3時

講師（敬称略）：（一社）異文化伝統工芸交流協会（CCAA）代表理事 伊藤ふさ美・理事 伊藤陽一郎
女子美術大学名誉教授 小林信恵

参加人数：大人21名 子ども10名

【アジアアフリカを知る集い】 インドネシア映画の上映とトーク

夢見るインドネシア ― 伝統と開発の葛藤を超えて自ら拓く未来

第30回を迎えた「アジア・アフリカを知る集い」は、「インドネシア映画の上映とトーク 夢見るインドネシア ― 伝統と開発の葛藤を超えて自ら拓く未来」と題し、初めての試みとして、外国映画の上映と専門家の講演という組み合わせで実施しました。



広報用チラシ

また、社会の変化がインドネシアにどのように描かれてきたかの変遷、そして、それらを踏まえての「ジャングル・スクール」のみどころ等について、解説していただきました。

参加された方のアンケートからは、「このような映画がみられて良かった。いろいろなことを考えるヒントがえられる」、「映画文化としてのインドネシア映画にも興味を持った。西先生のレクチャーも大変面白く、滞在したことがあっても知らないことも多かったインドネシアの歴史・文化について理解が深まった」、「映画は躍動的で上質だった。加えて、西先生から時代状況、制作側の状況、映画のみどころなどをご解説いただいたので、学びが一層深まった。良い企画に感謝したい」等の感想が寄せられました。

【あらすじ】

NGOで働くステット（主人公）はスマトラ島の森で暮らす子どもたちに読み書きを教えていた。ある日、森の中で倒れ、別の集落の少年スongoに助けられる。集落には読み書きできる大人がいない。そのせいで森の外の人間から不当な扱いを受けていると知ったステットは……。実在の人物を主人公に、自然、文明、教育、そして次世代に向け未来を穏やかな視線で問う。

当日は、季節に似合わぬ寒さと雨という生憎の天候にもかかわらず、会場一杯の53名の方にご来場いただきました。

上映映画は、リリ・リザ監督の「ジャングル・スクール」(福岡市総合図書館から所蔵作品の使用許可を得て使用)。映画の内容が少しでも伝わるよう、今回のイベントに「夢見るインドネシア ― 伝統と開発の葛藤を超えて自ら拓く未来」というサブタイトルを掲げました。上記のあらすじもご参照ください。

上映後の「トーク」には、京都大学の西芳実准教授が登壇されました。インドネシアの国土や人々の多様性、映画とのかかわり、



京都大学西准教授によるトーク

実施日時：令和7年3月29日（土）

講師（敬称略）：京都大学東南アジア地域研究研究所准教授 西 芳実

参加人数：53名

上映映画：リリ・リザ監督「ジャングル・スクール」

▶ 留学生用図書の充実

アジア・アフリカ図書館は「専門学校アジア・アフリカ語学院の図書室」という性格も持っています。

アジア・アフリカ語学院の創立は1961年。開校当時はアジア・アフリカ世界の諸言語を教授する日本唯一の語学校でした。開校以来、教員は教材資料、生徒は地域研究の参考図書としてアジア・アフリカ図書館を利用してきました。当時、主要な生徒は日本人でしたが、グローバル化の進展に伴い、2000年代以降は日本語を学ぶ外国人留学生が増えました。

留学生の出身地域は数年前と比しても変化しています。かつて多かった東アジアが減少し、東南アジアからの留学生が増えています。

当図書館では、今年度も留学生にとって喫緊の課題である日本語能力試験対策のため、様々なレベルに応じた図書を新たに購入し、配架しました。

また、試験対策だけでなく、日本での社会生活を送る上で役に立つ図書や、日本の歴史を楽しく学びながら語学力の向上に役立つ書籍の選定にも努めています。



新たに配架した留学生用図書の一部

▶ 「みんなみフェスタ」2025 開催

古本市の開催&音楽の調べ 他

三鷹市立南部図書館のイベント「みんなみフェスタ」の開催にあわせて、アジア・アフリカ図書館では今年も「古本市」を開催します。また、中国の伝統的な民族楽器「二胡」の演奏とトークを行います。

また、その他のイベントとして、アフリカ布を使ったしおり作成、留学生のおはなし会、食茶房むうぶキッチンカーによるカフェなど企画しています。詳しくは三鷹市立南部図書館（電話 0422-76-5571）までお問い合わせください。

【古本市】

日 時 11/23（日）午前11時～午後4時
場 所 アジア・アフリカ図書館

【二胡の演奏とトーク】

日 時 11/23（日）午後2時～午後4時
参加費無料
演奏者 作曲家&演奏家 濱島祐貴 氏
場 所 アジア・アフリカ語学院3階教室

【おはなし会】

日 時 11/23（日）午前10時～午前11時
場 所 南部図書館 おはなしのへや
* 10/17（火）午前9時半から先着40名申込み制

【ワークショップ～しおりを作ろう～】

1. しおりに外国語で好きな言葉を書こう
2. アフリカ布チテングを使ったしおりを作ろう

日 時 11/23（日）午前10時半～12時半
場 所 アジア・アフリカ語学院3階教室



公益財団法人 アジア・アフリカ文化財団経営 アジア・アフリカ図書館

開館日：火（予約制）、土、日（年末年始を除く） 開館時間：12時～17時

〒181-0004 東京都三鷹市新川5-14-16 Tel：0422-44-4640 Fax：0422-46-5107